

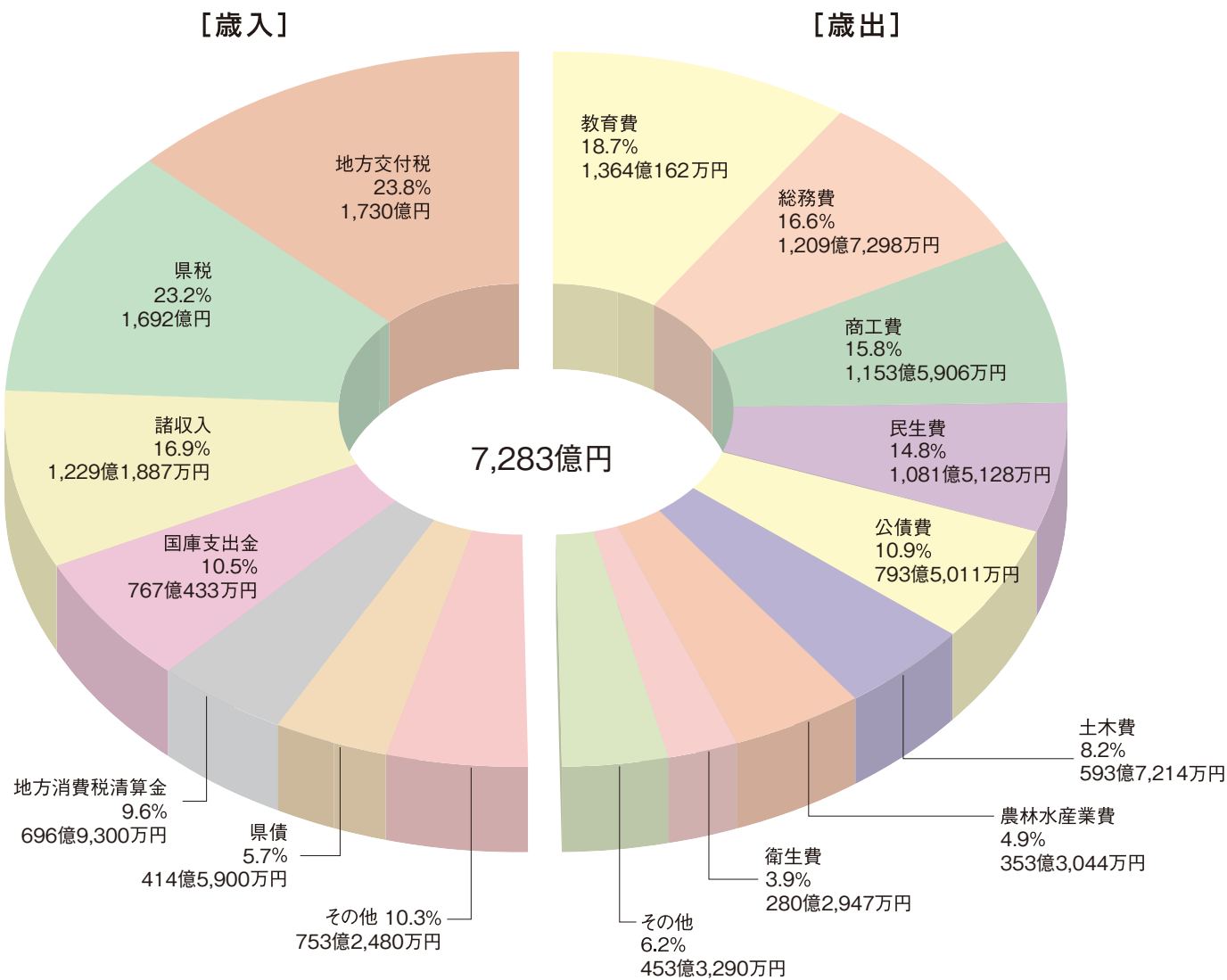
県の予算

当初予算(一般会計)

令和6年度当初予算では、混迷する国際情勢をはじめ、能登半島地震等の大規模災害や想定を上回るスピードで進む少子化・人口減少、デジタル技術の急速な進展等の変動要因をしっかりと捉え、多様化・複雑化・高度化が進む様々な県政課題を先送りすることなく、確かな戦略をもって、積極的に政策展開を図ります。

今回の予算は、新ステージの公約を具体化した「総合計画」を策定して以降、初めてとなる重要な当初予算であり、人口減少対策、DXの推進、防災・減災対策、地域経済の活性化の四つを重点施策として、計画に掲げる目標の達成に向け、新ステージのスタートとともに種をまいてきた施策の更なる成長(ステップアップ)と、将来を見据えた新たな仕掛けとの両輪で、新ステージの挑戦を引き続き力強く推進します。

令和6年度当初予算(一般会計)の歳入歳出



※地方交付税とは、地方公共団体の収入を公平にするために国から交付される国税(所得税、法人税、酒税等)の一定割合のお金
※国庫支出金とは、補助金、措置費等として国から県に支出されるお金
※県税とは、県民が納めた県民税、事業税、自動車税等のお金
※公債費とは、地方公共団体が借入れたお金の元金・利子の支払い合計額

県勢のあらまし

地 勢

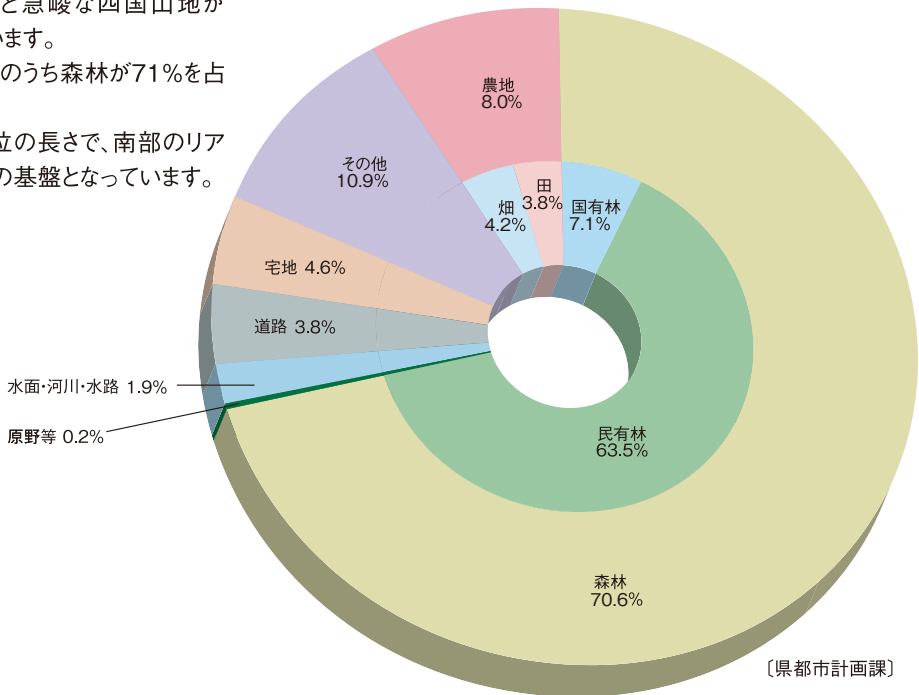
本県は、四国の北西部に位置し、北は瀬戸内海に、西は宇和海に面しており、海上には大小391もの島々が点在しています。

地形は、県を東西に横断する中央構造線を境に、北側はなだらかで沿岸部には平野が多く、南側は西日本一の石鎚山(1,982m)や雄大な四国カルストなど急峻な四国山地が連なり、山地や盆地の多い地形となっています。

総面積は、5,676km²で全国第26位、このうち森林が71%を占めています。

また、海岸線は約1,700kmと全国第5位の長さで、南部のリアス海岸を中心に良港が多く、水産県愛媛の基盤となっています。

愛媛県土地利用現況(令和4年10月1日)



気 候

瀬戸内海沿岸部は、季節風の影響で、年間を通じて降水量が少なく、比較的温暖な瀬戸内海型気候となっています。

一方、南西部の宇和海沿岸部や山間部は、降水量も比較的多い南海型気候です。

人 口

令和2年10月1日現在の人口は、133万4,841人で、全国総人口の1.1%を占め、全国第28位です。

本県の人口は昭和60年以降、減少しており、少子高齢化が進んでいます。

総務省「令和2年国勢調査」

県名の由来

「愛媛」の名は、『古事記』(和銅5年(712年)太安万侶の編纂による。)の記述に、伊邪那岐の命と伊邪那美の命が国生みをしたとき、「伊予の国を愛比売といひ」とあり、この愛比売が「愛媛」に転化し、現在の県名になったとされています。

県のおいたち

本県は、江戸時代まで「伊予の国」と呼ばれ、西条・小松・今治・松山・大洲・新谷・吉田・宇和島の八藩に分かれていましたが、明治4年(1871年)7月14日の廃藩置県により、各藩はそれぞれ同名の県となりました。

その後、同年11月15日に、西条・小松・今治・松山の4県が合併して松山県に、大洲・新谷・吉田・宇和島の4県が合併して宇和島県となりましたが、翌5年2月9日に松山県は石鐵県、6月23日に宇和島県は神山県と改称された後、明治6年(1873年)2月20日、両県が合併して「愛媛県」が誕生しました。

現在、この2月20日は「愛媛県政発足記念日」になっています。